

平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年2月10日

上場会社名 旭有機材工業株式会社

上場取引所 東

コード番号 4216 URL <http://www.asahi-yukizai.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐次 洋一

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画部長 (氏名) 岡本 忠久

TEL 03-3256-2451

四半期報告書提出予定日 平成21年2月10日

(百万円未満四捨五入)

1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	28,052	—	219	—	537	—	△930	—
20年3月期第3四半期	29,050	△4.9	1,579	△39.8	1,847	△41.7	1,078	△40.1

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	△9.51	—
20年3月期第3四半期	11.03	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭
21年3月期第3四半期	60,787	437.78	42,820	437.78	70.4	437.78
20年3月期	59,881	459.67	44,972	459.67	75.0	459.67

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 42,779百万円 20年3月期 44,927百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
20年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
21年3月期	—	5.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	1.00	6.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 有

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,000	△10.1	△400	—	△300	—	△2,500	—	△25.58

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有

新規 1社(社名 旭有機材樹脂(南通)有限公司) 除外 1社(社名)

(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第3四半期 99,002,000株 20年3月期 99,002,000株

② 期末自己株式数 21年3月期第3四半期 1,283,919株 20年3月期 1,263,529株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第3四半期 97,729,313株 20年3月期第3四半期 97,745,898株

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

本資料に記載されている将来に関する記述は、現時点において合理的であると判断するデータに基づいて作成しておりますが、様々な不確定要素が内在しているため、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。

・ 定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

アメリカのサブプライムローンに端を発した金融危機は、昨年9月のリーマンブラザーズ証券の破綻を契機として瞬く間に全世界に広がりました。その金融収縮と雇用悪化により消費が大幅に減少し、それを受けて生産と設備投資に急激なブレーキがかかり、それがさらに雇用と消費を引き下げるといった悪循環に陥っているというのが、当第3四半期連結累計期間における世界経済の現状と認識しております。

このような環境のもとで当社グループは、営業強化により販売量の維持・拡大を図るとともに、工程短縮・省力化や総経費の見直しを実施しコスト削減に努めました。自動車メーカーを始めとする大規模な生産調整や、消費の縮小・景気減退に伴う設備投資の急速な減速により、大幅な販売数量の減少と収益の低下を食い止めることができませんでした。また、世界的な証券市場の大混乱により、特別損失に多額の投資有価証券評価損を計上することとなりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は28,052百万円、営業利益は219百万円、経常利益は537百万円、四半期純損失は930百万円となりました。

事業部門別の状況は、次のとおりであります。

① 管材システム事業部門

主力製品である配管材料は、各企業の収益が依然回復の兆しがみられないまま、建築設備、プラント設備投資の先送り、もしくは中止の傾向が顕著にみられたことから、売上高は伸び悩みました。利益面におきましては、原料の高止まりから積極的なコストダウンに取り組んだものの、市況の冷え込みによる販売競争の激化などにより、売上高が大幅に落ち込んだことで、利益を圧迫することとなりました。

これらの結果、当事業部門の売上高は18,830百万円、営業利益は340百万円となりました。

② 樹脂事業部門

主力製品である鋳物用樹脂及びRCSは、主要仕向け先である自動車関連産業の国内生産が大幅に減産となったことにより、売上高及び営業利益は減少しました。また、IT産業向けの電子材料用樹脂についても、仕向け先の生産調整の影響で大きく販売数量を減少させました。

これらの結果、当事業部門の売上高は9,222百万円、営業損失は120百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の資産は60,787百万円となり、前連結会計年度末に比べ906百万円増加しました。これは設備投資に伴う有形固定資産の増加や連結会計年度末までに売上を予定している仕掛品を主体とするたな卸資産の増加などによるものです。

負債は17,967百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,058百万円増加しました。これは当座借越による短期借入金の増加が主な要因です。

純資産は42,820百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,152百万円減少しました。これは四半期純損失や配当による株主資本の減少と為替換算調整勘定の減少などによる評価換算差額等の減少によるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成20年11月11日に公表いたしました平成21年3月期連結通期の連結業績予想に対し、昨年9月以降の金融危機に端を発する世界経済の急激な悪化が、製造業全般の設備投資の凍結・延期、半導体業界向け事業の低迷や自動車産業の減産など、当社グループ業績に多大なる悪影響を及ぼしております。第4四半期につきましても当社を取り巻く経済環境は、一段と悪化することが予想されることから、今回業績予想を修正いたします。これに伴い個別業績予想を修正し、配当につきましても、当初の期末配当予想より4円減配の1円とし、年間配当は6円とさせていただきます。

(連結業績予想)

	今回修正予想	(ご参考)前期実績 平成20年3月期
売上高	百万円 36,000	百万円 40,025
営業利益または営業損失(△)	△ 400	2,078
経常利益または経常損失(△)	△ 300	2,287
当期純利益または当期純損失(△)	△ 2,500	1,371

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

第1四半期連結会計期間から、重要性が増した旭有機材樹脂(南通)有限公司を連結の範囲に含めております。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

1 一般債権の貸倒見積高の算定方法

前連結会計年度末に算定した貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

2 棚卸資産の評価方法

棚卸資産の簿価切下げに関して、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価格を見積り、簿価切下げを行なう方法によっております。

3 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。ただし、経営環境等、又は、一時差異等の発生状況に著しい変化が認められる場合は、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングに当該著しい変化の影響を加味したものを利用する方法によっております。

4 未実現損益の消去

四半期連結会計期間末在庫高に占める当該棚卸資産の金額及び当該取引に係る損益率を合理的に見積って計算しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

1 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

2 「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成5年6月17日 最終改正平成19年3月30日 企業会計基準第13号)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成6年1月18日 最終改正平成19年3月30日 企業会計基準適用指針第16号)を第1四半期連結会計期間から早期に適用し、所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理から通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更しております。

また、リース資産の減価償却の方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する方法によっております。

なお、リース取引開始日が適用初年度前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。

これによる損益への影響はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,277	2,449
受取手形及び売掛金	16,026	16,794
有価証券	27	1,274
たな卸資産	8,055	6,815
その他	2,118	1,026
貸倒引当金	△150	△79
流動資産合計	29,351	28,279
固定資産		
有形固定資産	15,546	14,108
無形固定資産	539	645
投資その他の資産		
投資有価証券	12,359	12,902
その他	3,021	4,015
貸倒引当金	△30	△67
投資その他の資産合計	15,351	16,850
固定資産合計	31,436	31,602
資産合計	60,787	59,881
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,349	9,064
短期借入金	3,026	27
引当金	351	—
その他	2,107	2,818
流動負債合計	14,832	11,908
固定負債		
長期借入金	151	195
退職給付引当金	1,411	1,369
役員退職慰労引当金	221	247
その他	1,353	1,190
固定負債合計	3,135	3,001
負債合計	17,967	14,909
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	8,480	8,480
利益剰余金	30,029	31,936
自己株式	△546	△541
株主資本合計	42,962	44,876
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△207	△166
為替換算調整勘定	23	218
評価・換算差額等合計	△183	51
少数株主持分	41	45
純資産合計	42,820	44,972
負債純資産合計	60,787	59,881

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
売上高	28,052
売上原価	19,873
売上総利益	8,179
販売費及び一般管理費	7,960
営業利益	219
営業外収益	
受取利息	154
受取配当金	285
持分法による投資利益	30
その他	95
営業外収益合計	564
営業外費用	
支払利息	21
為替差損	193
その他	33
営業外費用合計	247
経常利益	537
特別損失	
固定資産除売却損	13
投資有価証券評価損	1,878
その他	0
特別損失合計	1,891
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,354
法人税等	△421
少数株主損失(△)	△4
四半期純損失(△)	△930

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	管材システム 事業(百万円)	樹脂事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	18,830	9,222	28,052	—	28,052
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	18,830	9,222	28,052	—	28,052
営業利益又は営業損失(△)	340	△ 120	219	—	219

(注) 1 事業区分の方法

製品の種類、性質、製造方法、販売方法等類似性、損益集計区分及び関連資産等に照らし、事業区分を行なっております。

2 各事業の主要製品

事業区分	主要製品
管材システム事業	プラスチック製バルブ、パイプ、継手、フランジ、ガスケット、汚泥改質機構、電気透析脱塩装置、配管工事等のエンジニアリング、半導体関連機器の治工具洗浄装置等
樹脂事業	フェノール樹脂(鋳物用、発泡用、建材用、電子材料用、一般工業用等)、レジコーテッドサンド、フェノール樹脂成形材料、ジアリルフタレート樹脂成形材料等

【所在地別セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	中国 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	24,950	2,866	236	28,052	—	28,052
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,102	—	—	1,102	(1,102)	—
計	26,052	2,866	236	29,154	(1,102)	28,052
営業利益又は営業損失(△)	215	172	△ 148	239	(19)	219

【海外売上高】

当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	北米	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	2,437	1,030	3,467
II 連結売上高(百万円)			28,052
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	8.7	3.7	12.4

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 本国以外の区分に属する主な国又は地域

(1)北米・・・・・・・・米国、カナダ

(2)その他の地域・・・上記以外の欧州、中南米、アジア等の地域

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考」

(要約) 四半期連結損益計算書

科 目	前年同四半期 (平成20年3月期第3四半期)
	金額
I 売上高	29,050
II 売上原価	19,865
売上総利益	9,184
III 販売費及び一般管理費	7,605
営業利益	1,579
IV 営業外収益	
1. 受取利息及び配当金	620
2. その他	119
営業外収益合計	739
V 営業外費用	
1. 複合金融商品評価損	299
2. その他	172
営業外収益合計	471
経常利益	1,847
VI 特別利益	
1. 投資有価証券売却益	98
2. その他	7
特別利益合計	105
VII 特別損失	35
税金等調整前四半期純利益	1,916
法人税、住民税及び事業税	531
法人税等調整額	304
少数株主持分損益	3
四半期純利益	1,078